

倉敷芸術科学大学

(シラバス)

授業科目名：西洋美術史Ⅰ				担当教員氏名：神原 正明																	
履修年次:1~4	単位数:2	開講期:前期	コマ数:1	(留意事項がある場合は記入)																	
【授業の目的】 西洋美術の歩みを原始時代から近代の始まりまでをたどっていきます。時代はそれぞれの形の特性を持っています。たとえばエジプトとギリシャではまったく異なった美意識によって、それぞれの形が生まれてきました。両者には優劣の差はないのですが、わたしたちはしばしば現代の美意識で時代の優劣をつけてしまいがちです。ここではそれぞれの時代が生み出した形の誕生の物語を、グローバルな視点から追いかけてみたいと考えています。細かなデータはできるだけ切り捨て、現在文化遺産として残されている視覚的資料を見ながら、本質的な形の歴史をたどりたいと思っています。美術作品を通してその背後にある人類の精神文化の普遍性と多様性を理解すること。																					
【授業内容】																					
<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. イタリア盛期ルネサンス</td> </tr> <tr> <td>2. 原始の造形</td> <td>10. イタリア・スペインのバロック美術</td> </tr> <tr> <td>3. 古代エジプト美術</td> <td>11. 17世紀オランダ・フランドル美術</td> </tr> <tr> <td>4. 古代ギリシャ美術</td> <td>12. 17世紀フランス美術</td> </tr> <tr> <td>5. 古代ローマ美術</td> <td>13. ロココ美術</td> </tr> <tr> <td>6. 中世ヨーロッパ美術</td> <td>14. 近代美術のはじまり</td> </tr> <tr> <td>7. イタリア初期ルネサンス</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 北方ルネサンス</td> <td></td> </tr> </table>						1. オリエンテーション	9. イタリア盛期ルネサンス	2. 原始の造形	10. イタリア・スペインのバロック美術	3. 古代エジプト美術	11. 17世紀オランダ・フランドル美術	4. 古代ギリシャ美術	12. 17世紀フランス美術	5. 古代ローマ美術	13. ロココ美術	6. 中世ヨーロッパ美術	14. 近代美術のはじまり	7. イタリア初期ルネサンス	15. まとめ	8. 北方ルネサンス	
1. オリエンテーション	9. イタリア盛期ルネサンス																				
2. 原始の造形	10. イタリア・スペインのバロック美術																				
3. 古代エジプト美術	11. 17世紀オランダ・フランドル美術																				
4. 古代ギリシャ美術	12. 17世紀フランス美術																				
5. 古代ローマ美術	13. ロココ美術																				
6. 中世ヨーロッパ美術	14. 近代美術のはじまり																				
7. イタリア初期ルネサンス	15. まとめ																				
8. 北方ルネサンス																					
【テキスト】 『快読・西洋の美術』神原 正明著(勁草書房)																					
【参考図書】 『世界美術大全集・西洋編』全28巻(小学館)																					
【成績評価の方法】 授業に取り組む姿勢(40%)、レポート(60%)で評価する。																					

授業科目名：西洋美術史Ⅱ				担当教員氏名：松岡 智子																	
履修年次:1~4	単位数:2	開講期:後期	コマ数:1	大原美術館をはじめとする美術館見学を実施する。																	
【授業の目的】 スライド等で各時代を代表する作品を紹介しながら、18世紀後半から20世紀初頭にかけての近・現代の西洋美術史の概説を行う。 近・現代の西洋美術史を理解するための基本的な知識を身につける。																					
【授業内容】																					
<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 象徴主義</td> </tr> <tr> <td>2. 新古典主義／ロマン主義</td> <td>10. フォーヴィスム／エコール・ド・パリ</td> </tr> <tr> <td>3. レアリズム／アカデミスム</td> <td>11. 表現主義</td> </tr> <tr> <td>4. 印象主義(1)</td> <td>12. ダダ／シュルレアリスム</td> </tr> <tr> <td>5. 印象主義(2)</td> <td>13. キュビスム／抽象</td> </tr> <tr> <td>6. 後期印象主義</td> <td>14. 総まとめ(1)</td> </tr> <tr> <td>7. 新印象主義</td> <td>15. 総まとめ(2)</td> </tr> <tr> <td>8. 世紀末／アールヌーボー</td> <td></td> </tr> </table>						1. オリエンテーション	9. 象徴主義	2. 新古典主義／ロマン主義	10. フォーヴィスム／エコール・ド・パリ	3. レアリズム／アカデミスム	11. 表現主義	4. 印象主義(1)	12. ダダ／シュルレアリスム	5. 印象主義(2)	13. キュビスム／抽象	6. 後期印象主義	14. 総まとめ(1)	7. 新印象主義	15. 総まとめ(2)	8. 世紀末／アールヌーボー	
1. オリエンテーション	9. 象徴主義																				
2. 新古典主義／ロマン主義	10. フォーヴィスム／エコール・ド・パリ																				
3. レアリズム／アカデミスム	11. 表現主義																				
4. 印象主義(1)	12. ダダ／シュルレアリスム																				
5. 印象主義(2)	13. キュビスム／抽象																				
6. 後期印象主義	14. 総まとめ(1)																				
7. 新印象主義	15. 総まとめ(2)																				
8. 世紀末／アールヌーボー																					
【テキスト】 監修 高階秀爾『西洋美術史』(美術出版社)2002年																					
【参考図書】 適宜紹介する。																					
【成績評価の方法】 授業に取り組む姿勢、小テストなどの平常点と定期試験で評価を行う。評価は、受講態度(40%)、定期試験(60%)の割合で評価する。																					

授業科目名 : デザイン史				担当教員氏名 : 近藤 研二	
履修年次:1~4	単位数:2	開講期:前期	コマ数:1	(留意事項がある場合は記入)	
<b>【授業の目的】</b> 産業革命以降におけるデザインが真の現代的意味をそなえるまでの経過を、美術の歴史的な流れや社会的背景を踏まえながら考察する。					
<b>【授業内容】</b> 1. オリエンテーション 2. 19世紀前期の建築・工芸 3. 近代グラフィックの始まり 4. ウイリアム・モリスの美術工芸運動 5. アールヌーボー運動とその意義 6. 新しい材料と工学の発展 7. ドイツ工作連盟とその周辺 8. バウハウス確立までのヨーロッパとアメリカ 9. バウハウスの理念(1) 10. バウハウスの理念(2) 11. アメリカ大陸のデザイン動向 12. 第二次大戦後のモダンデザインと美術 13. 第二次大戦後のグラフィックデザイン 14. 1970年以降のポストモダンデザインと美術 15. まとめ					
<b>【テキスト】</b> 使用しない					
<b>【参考図書】</b> 適宜紹介する					
<b>【成績評価の方法】</b> 授業に取り組む姿勢等の平常点とレポート(50%)、学期末の試験(50%)によって評価を行う。					

授業科目名 : 美学・芸術学概論 I				担当教員氏名 : 森田 亜紀	
履修年次:1~4	単位数:2	開講期:前期	コマ数:1	(留意事項がある場合は記入)	
<b>【授業の目的】</b> 古代ギリシアから現代にいたるまで、美や芸術をめぐるさまざまな展開されてきた先人の思索を概観する。そこで取り上げられてきた諸問題を整理し、美学や芸術学の基本となる諸概念を説明する。 学生ひとりひとりが、美学、芸術学の抽象的理論を、自分自身の美や芸術に関わる体験とむすびつけて理解し、自分に必要な問題を自分で考えることを目標とする。					
<b>【授業内容】</b> 1. 科目の紹介、受講生に対する美や芸術に関わる体験についてのアンケート実施 2. さまざまな問題:アンケート結果から、美学や芸術学の領域の諸問題を抽出 3. 「感性的認識の学」としての美学 4. 18世紀における美学の成立と、その契機たる「芸術」概念の成立 5. 「芸術」概念成立以前:VTR「レオナルド・ダ・ヴィンチの生涯」を資料として 6. 美的判断の主観性と普遍性 7. 美のさまざまな様相:機能美、感覚美ほか 8. 日常の感覚と「純粹感覚」 9. 美とかたち 10. 美とアイデア 11. 再現描写と自己表出 12. 感情移入と抽象 13. 制作と受容 14. 複製技術と芸術 15. まとめ					
<b>【テキスト】</b> 浅沼 圭司 『ゼロからの美学』(勁草書房)					
<b>【参考図書】</b> 適宜紹介する。					
<b>【成績評価の方法】</b> 授業に取り組む姿勢、課題レポート、期末の定期試験(レポート)によって評価する。課題レポート(40%)、定期試験(60%)の重み。所定の提出物が一つでも欠けた場合は、E判定。					

授業科目名 : 美学・芸術学概論Ⅱ				担当教員氏名 : 森田 亜紀	
履修年次:1~4	単位数:2	開講期:後期	コマ数:1	(留意事項がある場合は記入)	
【授業の目的】 美学・芸術学における先人の思索に加え、認知科学等、身体運動学、社会学、文化人類学、言語学、心理学、精神分析学など、自然科学・人文科学諸領域の所見を視野に入れながら、美的体験、芸術体験の基盤となる人間のはたらきを考察していく。 知覚、身体、技術、想像力、無意識、言語、文化などが、美や芸術に関わる人間の活動どのような位置を占め、どのようなにはたらいているのか、学生自身の体験と結びつけて理解させる。					
【授業内容】 1. 科目紹介、学生に対するアンケート実施 2. さまざまな問題:アンケートの結果から、当該科目の領域における諸問題を抽出 3. 自己の身体(1) 4. 自己の身体(2) 5. 自己の身体(3) 6. 知覚(1) 7. 知覚(2) 8. 知覚(3) 9. 共通感覚 10. 想像力(1) 11. 想像力(2) 12. 無意識 13. 言語 14. 文化 15. まとめ					
【テキスト】 使用しない。					
【参考図書】 適宜紹介する。					
【成績評価の方法】 課題レポートおよび期末の定期試験(レポート)によって評価を行う。課題レポート(40%)、定期試験(60%)の重みで判定。所定の提出物が一つでも欠けた場合は、E判定。					

授業科目名 : オリент美術史				担当教員氏名 : 鈴木 まどか	
履修年次:2~4	単位数:2	開講期:前期	コマ数:1	歴史学・文化の歴史の受講生には、継続講義となるよう用意されている。また、はじめての受講生にも十分配慮し、最初の2~3回の講義中に資料プリントなどを配布して簡潔な概説を行う	
【授業の目的】 オリент美術史といっても古代エジプト美術を取り上げるので、前もって明確に本主題を受講生に提示する。3000年以上に及ぶ美術の流れの中で、講義は中王国時代の美術を考察する。王を神と信じたことのできた古王国時代の崇高で巨大性を誇る美術と異なり、中王国時代の美術は人間的な性格で貫かれている。ファラオの彫像ですら武力と外交とで地位を得た雄々しい男性的力を持つ姿で表された。文学の時代とも言われる古典期の建築、彫刻、絵画、工芸を通してエジプト美術の真髄に迫る。					
【授業内容】 1. エジプト美術史とは? 講義目的、概要について 2. 史的・文化的背景 3. テーベの新興王家の国家再統一 4. デール・エル・バハリ遺跡と第11王朝 5. メンチュウヘテプ大王葬祭殿(1)建築 6. メンチュウヘテプ大王葬祭殿(2)彫刻・浮彫 7. 第11王朝一般人の美術~メケトラア墓出土遺物など 8. 第12王朝の樹立とファイユーム地方への遷都 9. ピラミッド・コンプレックス復活 10. 迷宮と遺跡 11. 王像の変遷 12. 第12王朝一般人の彫像・ブロンズ像の出現 13. 絵画・浮彫のリアリズム 14. 工芸とクレタ・東地中海との交易 15. 総まとめ					
【テキスト】 使用しない。					
【参考図書】 必要に応じて指示する。					
【成績評価の方法】 授業に取り組む姿勢と平常点を重視する。課題レポートもしくは定期試験で評価する。出席と授業態度(30%)、レポート・試験(70%)で評価する。					

授業科目名 : 水族栄養学				担当教員氏名 : 大塚 雅広	
履修年次:2~4	単位数:2	開講期:後期	コマ数:1		
<b>【授業の目的】</b>					
<p>近年、魚類飼育による自家汚染の問題や省資源の問題から、最少の餌料で最大の成長が求められるようになってきた。</p> <p>また、生物種によって、必要とする栄養素が異なっていて、水中に生息する水族は、水中という特殊な環境の中、餌料の栄養組成が陸上と大きく異なっている。要求に答えるためには、栄養学の知識が不可欠になる。</p> <p>魚類の栄養要求が他生物と異なることを理解するとともに、その原因が生物種によるものだけではなく、環境の影響があることを理解する。</p>					
<b>【授業内容】</b>					
1. 水族の摂餌と消化		9. 脂質の働きと要求量			
2. 五大栄養素と水族の栄養学的要求		10. ビタミンの定義と分類			
3. 糖質		11. 魚類の水溶性ビタミン①			
4. タンパク質		12. 魚類の水溶性ビタミン②			
5. タンパク質とアミノ酸		13. 魚類の脂溶性ビタミン			
6. アミノ酸要求量		14. 海水中のミネラルと魚類の要求ミネラル			
7. 小テスト		15. 魚類の微量ミネラル			
8. 脂質の構造と種類					
<b>【テキスト】</b>					
なし。必要に応じてプリントを配布する。					
<b>【参考図書】</b>					
渡邊武編「改訂 魚類の栄養と餌料」(恒星社厚生閣)、日本ビタミン学会編「ビタミンの辞典」(朝倉書店)					
<b>【成績評価の方法】</b>					
小テスト(60%)、定期試験(40%)。					

授業科目名 : 環境保健科学				担当教員氏名 : 浅川 富美雪	
履修年次:2~4	単位数:2	開講期:前期	コマ数:1	(留意事項がある場合は記入)	
<b>【授業の目的】</b>					
<p>人間の行動が環境に及ぼす影響並びに各種環境が生活に及ぼす影響について、基礎的知識を習得するとともに対策の立案、評価に必要な基礎的知識と技術を学習させる。とくに重視する事項は人間と環境の相互作用の理解ならびに地域社会におけるその行動である。</p> <p>Think Globally, Act Locallyの意味を理解し、行動することができるように、知識と技術および考え方を習得する。</p>					
<b>【授業内容】</b>					
1. 環境の概念、人間-環境系、生態系、量-影響(反応)関係					
2. 公害、発生要因、影響、対策、環境影響評価、環境基本法					
3. 空気(大気)環境と健康、物理的要因(気象)・化学的成分					
4. 大気汚染(物質)、影響、現状、環境基準、対策					
5. 水環境と健康、水質指標、上水道、水質基準					
6. 水質汚濁、汚水処理、下水道、排水基準、環境基準					
7. 廃棄物、処理、土壌汚染、化学物質汚染、騒音、振動、悪臭					
8. 居住・生活環境、室内空気汚染、温熱指数、至適条件					
9. 働く環境と健康、歴史、労働基準法、労働安全衛生法					
10. 職業性因子による健康障害、物理的要因、じん肺					
11. 有機溶剤、重金属、中毒、発がん、生物学的モニタリング					
12. 健康管理、作業管理、作業環境管理、Total Health Promotion Plan					
13. 地球環境問題、地球温暖化、オゾン層の破壊・熱帯雨林の減少 etc					
14. Think Globally, Act Locally.					
15. 総まとめ					
<b>【テキスト】</b>					
プリントを配布する					
<b>【参考図書】</b>					
国民衛生の動向(厚生統計協会)、環境白書(環境省)等					
<b>【成績評価の方法】</b>					
授業に取り組む姿勢・小テスト(20%)と定期試験(80%)で評価を行う。					

授業科目名 : バイオメカニクス				担当教員氏名 : 枝松 千尋	
履修年次:3~4	単位数:2	開講期:前期	コマ数:1	・電卓を持参すること。	
<b>【授業の目的】</b>					
安全に効率的にスポーツのパフォーマンスを向上させるためには、スポーツ技術の裏側にあるものを理解し、分析し、そして新たなものを創造することが必要である。本講義では、力学・人体解剖学・運動生理学の複合領域であるバイオメカニクスを学び、科学的な視点からスポーツ技術を理解することを目指す。					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・力学の基礎を身につける。</li> <li>・スポーツ技術をバイオメカニクスの観点から考察できる能力を身につける</li> </ul>					
<b>【授業内容】</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 身体のバイオメカニクスの特性と動作解析へのアプローチ法</li> <li>3. 身体重心(慣性質量と慣性モーメント)</li> <li>4. 加速度・速度・変位</li> <li>5. 力</li> <li>6. 運動量と力積</li> <li>7. 投射体の運動</li> <li>8. 力学的エネルギー・仕事・パワー</li> <li>9. 力のモーメントと角運動量</li> <li>10. 関節トルク</li> <li>11. 流体力学(空気・水の力とスポーツ)</li> <li>12. スキルのバイオメカニクス(1)</li> <li>13. スキルのバイオメカニクス(2)</li> <li>14. スキルのバイオメカニクス(3)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>					
<b>【テキスト】</b>					
阿江 通良・藤井 範久 著「スポーツバイオメカニクス20項」(朝倉書店)					
<b>【参考図書】</b>					
プリント等配布					
<b>【成績評価の方法】</b>					
授業に取り組む姿勢と小テスト(40%)、定期試験(60%)により評価する。					

授業科目名 : 生命関連法規				担当教員氏名 : 神田 鉄平	
履修年次:1~4	単位数:2	開講期:後期	コマ数:1		
<b>【授業の目的】</b>					
動物に関連する様々な法律について、その概要を知るとともに、特に動物の愛護及び管理に関する法律を理解することで社会における動物と、「動物に関係した職業」の立場を考える。出来るだけ具体事例と法律の条文を照らし合わせることで、法律が縁遠いものではなく、仕事を進めるにあたってその理解が必要不可欠であることを学ぶ。					
日々、目にする報道やニュースの中で関連する法律や制度が出てきた際に、それに気付くことができること、さらに一般市民よりももう一段深く理解できることを目標とする。					
<b>【授業内容】</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. なぜ「生命関連法規」を学ぶのか</li> <li>2. 動物の愛護及び管理に関する法律(1)</li> <li>3. 動物の愛護及び管理に関する法律(2)</li> <li>4. 動物の愛護及び管理に関する法律(3)</li> <li>5. 動物の愛護及び管理に関する法律(4)</li> <li>6. 動物の愛護及び管理に関する法律(5)</li> <li>7. 動物の愛護及び管理に関する法律(6)</li> <li>8. 獣医師法</li> <li>9. 獣医療法(1)</li> <li>10. 獣医療法(2)</li> <li>11. 愛がん動物用飼料の安全の確保に関する法律</li> <li>12. 身体障害者補助犬法</li> <li>13. 薬事法(1)</li> <li>14. 薬事法(2)</li> <li>15. グループディスカッション</li> </ol>					
<b>【テキスト】</b>					
使用しない。					
<b>【参考図書】</b>					
授業の中で適宜紹介する。					
<b>【成績評価の方法】</b>					
授業に取り組む姿勢(10%)、試験(90%)により総合的に評価する。					

授業科目名 : 生命倫理				担当教員氏名 : 古川 敏紀
履修年次:1~4	単位数:2	開講期:前期	コマ数:1	生命倫理教育においては各人の持つ意見について具体的事例を挙げながら、周囲に分かりやすく説明させる能力を求める。
<b>【授業の目的】</b>				
生命をいたわる事がなぜ必要なのか、そのために倫理を持たなければいけないとはどういう事なのかについて学び、法律との関係や動物飼育者を指導出来る基本的な素養を学ぶ。 生命とは何かを学び、何故それを大事にする必要があるかを学ぶ。				
<b>【授業内容】</b>				
1. 生命倫理とは何か？(1)アウトライン 2. 生命倫理とは何か？(2)歴史 3. 生命倫理とは何か？(3)歴史 4. 具体的な事例に基づいて(1)グループディスカッション 5. 具体的な事例に基づいて(1)ヒトの医療の例 6. 具体的な事例に基づいて(2)ヒトの医療の例 7. 具体的な事例に基づいて(3)ヒトの医療の例 8. 小テストと解説 9. 具体的な事例に基づいて(4)我が国での例 10. 具体的な事例に基づいて(5)我が国での例 11. 具体的な事例に基づいて(6)我が国での例 12. 具体的な事例に基づいて(2)グループディスカッション 13. 小テストと解説 14. 具体的な事例に基づいて(3)グループディスカッション 15. 総まとめ				
<b>【テキスト】</b>				
なし				
<b>【参考図書】</b>				
授業の中で適宜紹介する。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
グループディスカッションにおける積極的な発言(40%)と試験(60%)により評価する。				

授業科目名 : 岡山ビジネス研究				担当教員氏名 : 塩飽直紀・岡野喜良
履修年次:2~4	単位数:2	開講期:後期	コマ数:1	
<b>【授業の目的】</b>				
岡山地域を中心に企業経営の現場で日々奮闘されている経営者や業界リーダーの方々を週替わりで招聘し、起業のいきさつや企業経営のポイントを、それぞれ独自の切り口で語っていただき、経営情報学科生の起業・企業経営上の意識向上を図る。企業見学も2回程度入れるつもりである。 経営情報学科生としてのモチベーション向上と経営的センスの育成を図る。				
<b>【授業内容】</b>				
1. オリエンテーション(スケジュール説明、受講マナーについて) 2. 第1回外部講師講演 3. 第2回外部講師講演 4. 第3回外部講師講演 5. 第1回企業見学 6. 第4回外部講師講演 7. 第5回外部講師講演 8. 第6回外部講師講演 9. 第7回外部講師講演 10. 第2回企業見学 11. 第8回外部講師講演 12. 第9回外部講師講演 13. 第10回外部講師講演 14. 第11回外部講師講演 15. 第12回外部講師講演				
<b>【テキスト】</b>				
使用しない。				
<b>【参考図書】</b>				
特になし。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
レポート及び受講態度をそれぞれ7対3の割合で点数化して評価する。				

授業科目名 : おかやま倉敷学				担当教員氏名 : 濱家 輝雄	
履修年次:1~4	単位数:2	開講期:前期	コマ数:1		
<b>【授業の目的】</b> 本講義では、大学が位置する倉敷地域において、観光事業に取り組んでいる方や芸術・文化を専門とする方から、過去及び現在の倉敷の地域性を総合的に学ぶものである。「倉敷で学ぶ・倉敷に学ぶ」をモットーに、古きものを大事にししながら新たな価値を生み出していく芸術文化都市である倉敷の営みを、くらし、産業、文化、芸術などの多面的かつ複眼的な視点から学ぶ。 芸術文化都市「倉敷」の地域性を総合的に理解する。					
<b>【授業内容】</b> 1. オリエンテーション おかやま倉敷学とは 2. 倉敷市の観光行政 3. 倉敷村の町並みの歴史 4. 大原美術館の誕生秘話 5. 倉敷民芸館 6. 我がガイド人生 7. これからの岡山観光振興について 8. 倉敷の自然について 9. 国産ジーンズ発祥の地倉敷 10. 岡山弁再発見 11. くらし・きになる暮らし直し 12. 倉敷アイビースクエアの取り組み 13. 岡山は水の国 14. 「備中倉敷学」を通しての町おこし 15. 大原孫三郎について					
<b>【テキスト】</b> なし					
<b>【参考図書】</b> 担当者が必要に応じて資料を配布する。					
<b>【成績評価の方法】</b> 受講態度(50%)、授業の要点整理・課題(50%)で総合評価する。					

授業科目名 : 臨床細胞学総論 I				担当教員氏名 : 大野 英治・ 三宅 康之・宮本 朋幸	
履修年次:1~4	単位数:2	開講期:後期	コマ数:1	私語、遅刻は厳禁。 講義はup-to-dateなものとするため、講義日程を変更する場合もある。	
<b>【授業の目的】</b> 講義では、特に子宮頸部病変に関する総合的知識と出現する細胞の形態的特徴を学ぶ。 臨床細胞学の序論として、まず細胞診断学総論を学び、正確な診断のために重要な課題である標本作製のための知識も習得させる。					
<b>【授業内容】</b> 1. ガイダンス 2. 細胞診断学総論①:細胞診の目的・腫瘍について・細胞診の発達史 3. 細胞診断学総論②:細胞診の適応範囲・標本作製手技・パパニコロウ分類 4. 細胞診断学総論③:癌細胞の判定基準・用語の説明・細胞診の長短所 5. 標本作製の実際と理論的背景①:検体採取から塗沫・固定・封入に必要な技術 6. 標本作製の実際と理論的背景②:各種染色法と理論 7. 子宮:子宮の解剖学、組織学、細胞採取法 8. 子宮頸部の細胞診①:正常細胞の細胞診 9. 子宮頸部の細胞診②:良性変化の細胞診① 10. 子宮頸部の細胞診③:良性変化の細胞診② 11. 鏡検実習:顕微鏡で実際の標本見る 12. 子宮頸部の細胞診④:ホルモン細胞診 13. 細胞診に必要な発生学・細胞学・組織学①:発生学 14. 細胞診に必要な発生学・細胞学・組織学②:細胞学 15. 細胞診まとめ					
<b>【テキスト】</b> 「臨床検査講座(別巻):細胞診」医歯薬出版					
<b>【参考図書】</b> 「～基礎から学ぶ～ 細胞診のすすめ方」(近代出版)など					
<b>【成績評価の方法】</b> 講義に取り組む姿勢(10%)と定期試験(90%)で評価を行う。					